

町中の前方後方墳
4 乃木二子塚古墳 県指定
松江市上乃木町



国道九号（松江道路）沿いにある全長約四〇メートルの古墳です。現在は住宅団地となりわかりにくくなっていますが、もとは低い丘陵の先端にあたる見晴らしのよい場所にあります。一九八一年に一部調査され、須恵器などが出土し、その特徴から六世紀前半ごろに造られた古墳と考えられています。説明板あり。



一つの古墳に二つの舟形石棺
1 玉造築山古墳 県指定
八束郡玉湯町玉造



温泉街の西側にあり、一つの古墳に二つの舟形石棺を持つという珍しい古墳です。四つの縄掛突起がついた石棺は、同町の徳連場古墳と同様、地元で「白粉石」といわれる真っ白でやわらかい石を使っています。徳連場古墳よりも丸みがある点は、やや新しい特徴と考えられています。



古い横穴式石室
5 薄井原古墳 県指定
松江市坂本町



全長五〇メートルの前方後方墳で、横穴式石室二基を持つています。石室の壁は小さな自然石をつまく積んで造られており、入口は片側に寄せて付けられています。内部には石棺もあり、その形は石室と同様、近畿地方の古墳によく似ています。一九六一年に調査され、出土品から県内最古級の横穴式石室であることがわかっています。



道端の古墳
2 徳連場古墳 国指定
八束郡玉湯町玉造



玉造資料館の北側にある古墳です。墳丘頂部には舟形石棺があり、玉造築山古墳と同じ白粉石でいねいに造られたものです。この石棺は扁平な長方形で、周囲には縄を掛けるための突起が六つあります。玉湯町周辺は舟形石棺が多いのが特徴で、資料館と合わせて見学するとよいでしょう。



石棺式石室が集中
6 太田古墳群 県指定
松江市東持田町



石棺式石室が五基も集中しているのは、ここ松江市の山代・大草町だけです。この太田古墳群は、いずれも墳丘の残りが比較的良好ですが、石室は比較的よく残っています。五基のうち、安来の荒島石を使用しているものが二基あります。二号墳は内部に石棺を持つもので、大庭町の向山一号墳にそっくりです。



ていねいに造られた石室
3 出西小丸古墳 県指定
藤川郡斐川町出西



栖雲寺西側にある墓地の横にある古墳ですが、墳丘の形はよくわかりません。横穴式石室は玄室が奥に長いタイプで、玄門は柱状の石を立て、前面に閉塞石を入れるための段があります。入口の前に立てかけられ閉塞石は、苔におおわれていますが、「かんぬき」を表現した浮き彫りが見えます。須恵器の子持壺、大刀片が出土しています。



典型的な小古墳群
7 運動公園内古墳群 県指定
松江市浜乃木町



松江市の運動公園の入口西側に、緑地帯が残されています。この丘陵の上を歩くと所々に一〇メートルくらいのラフタのコブのような高まりが見えます。下草がほとんどないのでわかりやすいです。五世紀の古墳と推定されています。現在は地形が大きく変わってしまいましたが、このあたりはたくさん古墳が調査されたところです。



斐川町最大の円墳
4 小丸子山古墳 県指定
藤川郡斐川町学頭



水田の中にボツンと築かれた径三五メートル、高さ五メートルの円墳です。墳丘は高く、二段築成です。主体部は現在不明ですが、伝承によると小石を敷き詰めた礎床だったといわれています。斐川町最大の円墳で、周囲にある神庭岩船山古墳などとともに、この地域を治めていた人の墓と思われる。



エリア4 宍道湖南岸

この地域には四世紀の古墳はあまり見つかりませんが、五世紀以降はたくさん古墳が造られています。とくに集中するのは玉湯町周辺で、前方後円墳が目立つのも特徴です。ここでは古墳時代に花岡山で採れる碧玉が玉作りが盛んに行われており、詳しくは「碧玉」を参照してください。

また、このあたりで採れる来待石を材料として、多くの石棺・石室が造られており、詳しくは「碧玉」を参照し、一部は宍道湖北岸にまで運ばれています。斐川町の横穴式石室は松江市と出雲市の古墳の両方の影響が見られ、この地域の当時の立場を反映しているのかもしれませんが。



斐川町最大の前方後円墳
5 神庭岩船山古墳 県指定
藤川郡斐川町神庭



庄原小学校の校庭脇にある復元長四八メートル、高さ五メートルの前方後円墳で、前方部がすこし削られています。周囲を歩く古墳の形がよくわかります。後円部の上には砂岩で造られた舟形石棺のふた石の破片が残っています。復元すると長さ二・七メートル、幅一メートルの大きさで、縄掛突起が六つ付いていることがわかります。

現在は道になっている古墳の南側は、もともと台地を堀状に切り離したようすが、がえ、堀を造った際の土砂を盛って墳丘を造っていたと推定されます。現在はほとんど見ることはできませんが、墳丘からは埴輪の破片が見つかっています。

